

富士山

Mt. Fuji — Beauty of a Classic Symbol—

企画 外 務 省

イーストマンカラー25分

英・仏・独・西・葡 語版

【内 容】

この映画は、富士山に対する日本人の古来の憧れを導入に、現代の富士山を描いたものである。富士は詩にもうたわれ絵画にも描かれつづけてきたが、映画こそほんとうの富士の素顔とその豊かな生活を描くにふさわしいものであろう。
素
ここにもくれば現代の姿

富士は雲という厚いヴェールを被っていることが多く、偶然に思いがけない高いところに顔を出しているのを見ると崇高の感に打たれる。しかし、近づき踏み入った富士、科学的に見た富士山は、遠くから望んだ富士とはまた異った興味深い山である。
信仰の山、自然の気配を感じ

火山としての興味、動植物ことに野鳥の宝庫としてのたのしさ、通俗には登山のたのしみもある。夏は頂上に近づくに従って空気の稀薄になるのをこらえれば幼い子を背負っても登れるほど親しみやすい山だが、冬の富士は容易に人を近づけないきびしさである。

映画は夏を主に四季の変化をとおして富士をとらえている。

■ 製作スタッフ

製作 村 山 英 治 編集 沼 崎 梅 子

脚本 村 山 正 実 音楽 間 宮 芳 生

撮影 村 山 和 雄

株式会社 桜 映 画 社

東京都新宿区西新宿 1-22-1 〒160 電話 03 (342) 5 7 6 8